

平成 25 年 7 月 17 日

7 月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産は空梅雨のため順調な生産続く。スギ間伐材中心に平年を上回る入荷。荷動きはスギ柱材・小径材の入荷多く、虫害も懸念され引合い弱い。ヒノキは入荷少ないものの落ち着いた引合い続く。スギ価格は大量入荷により柱材が弱含み、中目材は弱保合となり値を下げた。ヒノキはピークを過ぎてジリ安に転じたが、底を打った模様。群馬の製材工場の操業状況は多少回復。原木の入荷は特に問題ない。公共物件の受注が始まり、少し忙しくなったが一般住宅は未だ回復しない。カラマツ原木は合板の買い意欲が高く価格は強いが、スギは売れ行き不振で柱、中目材とも 7,000 円/m³割れ寸前で価格見通しは厳しい。

2. 米材

5 月の米国新設住宅着工は、前月比 6.8%増の年率 91.4 万戸まで回復。米国丸太は地場製材所の需要が堅調だが、中国の買いが引き続きスローで、相場は弱含み。カナダ丸太はオールドが無い高で、セカンドは保合。産地の港頭在庫は、出荷量は変わらないが伐採量が増えており、在庫は増加傾向。ウェアハウザー社の 7 月積み米マツ IS ソートは 10 \$ ダウン。米材丸太の入・出荷、在庫とも横這。国内大型港湾製材工場の荷動は、KD 材を中心に 6 月も堅調。内陸部製材工場の荷動は、工場によってバラツキがあるが総じて低調。製材品の TLT(東京木材埠頭) 6 月入荷量は 82.0 千 m³で、前月比 12%減。出荷量は 68.7 千 m³で同 11%減、在庫は同 10%増。産地情勢は SPF の J グレードは横這いが続き、米材は比較的安定。丸太は全般に高値安定で大きな変化なさそう。産地価格は、引続き現地オファーは高値横這で推移しているが、その勢いは鈍化。先行きは国内製材品との価格差が縮まり、輸入材を使うコストメリットがなくなりつつある。入荷量は増えていないが動きが低調な中で在庫がやや増えそう。

3. 南洋材

サバは、不安定な天候と伐採調整の影響で原木の出材は限定的。各製材工場の原木在庫は少ない。原木価格は高止まりが続く中、7 月上旬からの断食のため、

しばらくは原木・製品とも入荷は減少の見込み。サラワクは出材減やコストアップを背景にシッパーは強気だが、日本側も円安と実需低迷で簡単には値上げを呑めないで、原木・製品共にせめぎあいが続く。PNG・ソロモンの出材は回復傾向。価格は綱引きが続き若干の値上がり。南洋材丸太の入荷は減少、出荷は横這、在庫は減少。原木の販売は合板用、製材用とも変わらず。製材品は集成材・栈木・棒類とも当用買いが続く。平割は横這。

4. 北洋材

ロシア極東ワニノ材の日本向けは、夏季のアムール配船が始まり出材は順調。ただし、中国内陸向けとロシア現地単板メーカー向けの丸太出荷は成約済で、無限に出材されるような状況ではない。シベリア地方は夏山が始まっているが、日本向けはブルステインのリスクから買い手無く、シベリア配船は11月以降と予測。富山新港の6月丸太入荷量は12千 m^3 （エゾマツ8千 m^3 、カラマツ1千 m^3 、アカマツ3千 m^3 ）、製品は11千 m^3 。価格動向は、丸太は横這い、製材品は輸入品・国内挽きとも仕入れ高値が続き、販売価格転嫁が追いつかない。荷動は丸太は順調、製材品はいまいち。在庫状況は1~1.5ヶ月位。国内製材工場の採算状況はエゾマツ、アカマツとも不採算続く。稼動状況は原木・原版の入荷減少で生産調整。

5. 合板

原料丸太のうち国産材は木材利用ポイントの絡みで、カラマツ価格が上昇。南洋材はコストアップからジリ高。米材も国内需要が旺盛で強気のまま推移。4月の国内合板生産量22.9万 m^3 のうち、針葉樹合板は21.3万 m^3 。出荷量は21.0万 m^3 で8ヶ月連続の20万 m^3 を超え依然高水準をキープ。在庫量は13.5万 m^3 で低水準。販売価格は、好調な出荷量と旺盛な需要量予測を背景にメーカー側の強気姿勢は今後も続く模様。国産針葉樹合板は12mmで一部不足感はあるものの、価格は相変わらずジリ高で推移。輸入合板の荷動きは完全に一服状態。現地情勢から先高感はあるものの、実需が待たれる状況。先行き針葉樹合板は、メーカーがどのアイテムに生産の比重を置くかにより、玉不足の恐れも。輸入合板は各港頭在庫が一杯の状態、急激な値上げや不足感が出ることは考えにくい。4月の輸入合板入荷量は34.1万 m^3 でかなりの高水準。港頭在庫は関東の各港とも満杯の状況が続く。

6. 構造用集成材

原料は現地出航・国内入荷とも順調。価格は3rdQTRが2ndから5€~10€アップ。価格上昇が続いている中、現地はかなりの強気で、国内集成材メーカーか

らの値下げ要請も無視されている状況。国産集成材の受注、販売・荷動き、先行きとも大手ハウスメーカー中心に引き続き良好。在庫は少ない。輸入集成材は、国内よりも強気の姿勢。現在 7~9 月積みで欧州アカマツ梁桁が 65,000 円~66,000 円/m³でオファー。現地は新工場立ち上げで、日本向けは増産の動き。木材利用ポイントで間柱がスギに移行し、WW 間柱は荷余り感あり。

7. 市売問屋

国産材の構造材は、スギ柱角の大口需要は少ないが、小口は活発。ヒノキ土台の動きはまずまず。造作材は、スギ内装用は小口主体でまずまずの動き、建具用は一服感強い。外材の構造材は、現地挽き製品の入荷薄により、内地挽き製品にシフトしているため、入荷がタイトな状態。造作材は米ヒバ、ピーラー、スプルースの良材の入荷少なく、入荷しても仕入価格高く販売に苦慮。市日の来場者数はこのところまずまずだが、買方の手持ち仕事量が少なく、在庫の出荷も鈍いことから、特殊品を除き様子見の流れ。

8. 小売

国産材の構造材はスギ KD 柱、小割、板割、ヒノキ KD 柱、土台いずれも保合。外材はロシアアカマツ KD 野縁が入荷少なく強保合。ベイツガ KD 角、平割り、SPF ともに強保合。造作材はスプルース、ピーラー平割強保合。WW、RW 集成材は梁、柱とも保合。合板は針葉樹、ラワンとも保合。プレカット工場の動向は毎月の値上げで見積りに苦労。各メーカーの受注状況は良く、納期がかかるため早めの対応が必要。街場の工務店はリフォーム中心に動きあり。新築の見積もりもあるが、予算が厳しく受注するにはかなりのコストダウンが必要。

7月の需給・価格動向

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	↗	→	↗
北洋材	丸太	↘	→	↘
南洋材	丸太	→	→	→
	製材品	→	↘	↘

矢印の表示は本月に対する翌月の動向を、下記のように示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	↘	→	↘

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	↘
			スギ中丸太(3.65m) 2等	↘
			ヒノキ柱材(3m) 2等	↘
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	↘
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ柱(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	↗
			スギ間柱 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×4m	↗
米材	丸太	産地価格 国内卸売価格 (京浜・オントラ)	米マツ ISタイプ	↘
			米マツ カスケード(カナダ産) 米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			米マツ桁角(GR) Std&Btr S4S 4・1/8'' 13' 米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16'' 13' 米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→
南洋材	丸太	産地価格 東京・水面筏 渡し価格	メランティレギュラー	→
			メランティレギュラー 60cm上、4m上 製材用 メランティレギュラー 60cm上、4m上 合板用	→
	製材品	産地価格 東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトセラヤ 平割(サバ州産)	→
			同上2.4cm×込み×4m 定尺1等	→
北洋材	製材品	国内卸売価格 (東京問屋着値)	エゾマツ(3.0×4.0×3.8m) 特等 アカマツ(3.0×4.0×4m) 特等 カラマツ(10.5×10.5×4m) 特等	→ → ※
欧州材	製材品 (現地挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 間柱 2.7×10.5×3m S4S FOHC ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗ ↗
集成材	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 無化粧 JAS 5プライ スギ 無化粧	→ →
	欧州産	〃	10.5×10.5×2.98m	↗
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗